

EBC(Evidence-based Control)研究会ワークショップ 2024のご案内

日時 2024年9月12日(木) 13時30分 ~ 9月13日(金) 11時45分

場所 東京農業大学 厚木キャンパス トリニティーホール(神奈川県厚木市船子1737)

参加申し込み 下参加申込サイト(<https://forms.office.com/r/E8C94eLxsK>)から8月22日(木)までに申し込みをお願いします。申し込みをされた方には、講演要旨(PDF)のダウンロード方法を電子メールにてご案内します。
参加費 1,000円



参加申込

プログラム

9月12日(木)

13:30 開会

第一部 近年問題となっている重要病害の最新研究

13:30~14:15 「開花期感染がリンゴ褐斑病の広域的な発生に及ぼす影響」

猫塚 修一【岩手県農業研究センター】

気象データを用いてリンゴ褐斑病の一次感染開始日と初発日を推定するモデルを作成し、過去25年間、岩手県内の一次感染開始日を推定したところ、近年は従来よりも大幅に早い開花期に出現していました。また、開花期感染が流行初期と盛期の発生に及ぼす影響を疫学研究によって検証しました。

座長:岩館 康哉(岩手県農業研究センター)

14:15~15:00 「青森県におけるリンゴ黒星病の最新の防除対策とその検証」

平山 和幸【(地独)青森県産業技術センターりんご研究所】

高品質のリンゴ栽培において、薬剤防除は欠かせない技術であり、時代・薬剤の変遷に伴いその体系も更新されています。本講演では、リンゴの重要病害である黒星病について、防除対策の考え方を薬剤の変遷と薬剤耐性菌の顕在化を交えながら紹介します。

座長:小河原 孝司(茨城県農業総合センター病害虫防除部)

15:00~15:10 一休憩

15:10~15:50 「カンキツ黒点病に対するマンゼブ水和剤の耐雨性と効果発現機構」

蓮沼 奈香子【日産化学株式会社】

マンゼブ水和剤はカンキツ黒点病の基幹防除剤として広く使用されています。本剤は降雨に強いことが知られていますが、不明な点も多く残されています。本講演では、本剤の耐雨性と枯枝に形成された柄胞子の果実への感染場面における本剤の感染阻止効果発現機構について紹介します。

座長:田代 暢哉(プラントヘルスケア研究所)

15:50~16:40 「ブドウ根頭がんしゅ病菌の生態に迫る」

川口 章【農研機構・西日本農業研究センター】

本病の名前はよく知られていますが、多発する原因や発病が生育に与える影響など、まだわかっていないことは非常に多いです。本講演では、特に圃場での調査データと数理モデル等を使った解析を通じて、本病原細菌の知られざる生態について追いかけて内容を紹介します。

座長:池田健太郎(法政大学生命科学部)

9月13日(金)

第二部 生産現場での実用例

9:00～9:45 「植物防御によるアザミウマ忌避とプロヒドロジャスモンの実用化」

安部 洋【理化学研究所バイオリソース研究センター】

我々はジャスモン酸類縁化合物であるプロヒドロジャスモン(PDJ)をアザミウマ類忌避剤として適用拡大申請し、2021年3月に農薬登録を取得しました。そこで害虫忌避に関わる植物防御が概説するとともに、そのメカニズムについても紹介します。

座長:池田健太郎(法政大学生命科学部)

9:45～10:30 「LED光源を用いたUV-B照射によるイチゴうどんこ病およびイチゴ炭疽病の抑制」

内橋 嘉一【兵庫県立農林水産技術総合センター】

LED光源は蛍光灯に比べ波長域を調整でき、出力制御や間欠照射が可能であるため、農業への利用が注目されています。そこで、UV-Bの波長領域を照射できるLED光源を用いてイチゴうどんこ病、炭疽病の抑制および葉の傷害に与える影響を調べた結果を紹介します。

座長:川口 章(農研機構・西日本農業研究センター)

10:30～10:45 ー休憩ー

10:45～11:45 パネルディスカッション・総合討論 池田 健太郎【法政大学生命科学部】

11:45 閉会

問い合わせ先:

研究会事務局 茨城県農業総合センター 小河原 孝司(takashi.ogawara@nifty.com)